

日 時：令和 5 年 7 月 20 日（木）18 時 30 分 ～19 時 40 分

場 所：尾崎多目的研修集会施設

対象地区：尾崎

参加人数：11 名

■要望、質疑応答

内 容
<p>○雨量・積雪の気象計について</p> <p>（市民から）</p> <p>テレビに表示される平川市の気象データは碓ヶ関のものだが、碓ヶ関と平賀では実態が違いすぎる。市内の観測地点はどこにあるのか。</p> <p>（市から）</p> <ul style="list-style-type: none">・雨量計は、小和森、道の駅いかりがせき、東部地区の津根川森、小国深沢にあり、市独自で公園に設置しているものもある。積雪計は小和森にある。・県で設置した雨量計が東小学校にあり、リアルタイムで確認できる。・碓ヶ関は気象台が観測所を設置してデータを収集しているので、テレビにも表示される。・気象台の観測所の場所を変えることはできないので、テレビで気象データを確認する際は黒石市のデータを参考にしていきたい。
<p>○尾崎地区の除雪回数について</p> <p>（市民から）</p> <p>道路の除雪作業後に、一人暮らしの高齢者宅の玄関先に残った雪の処理を町会でも実施するべきか検討している。除雪を年何回実施しているのか教えていただきたい。</p> <p>（市から）</p> <ul style="list-style-type: none">・少なくとも年 20 回は出動している。・除雪機の燃料代に充てることができるコミュニティ奨励金や、安価で玄関口まで除雪してくれる社会福祉協議会の制度があるので、活用を検討していきたい。・各戸の玄関口までの除雪を市で対応するのは難しいので、各地区でやっていただければありがたい。
<p>○集会施設への避難から指定避難所への避難について</p> <p>（市民から）</p> <p>尾崎の集会施設から避難所となっている東小学校までは距離があり、避難する際の移動が困難である。</p>

(市から)

- ・ 7月 14 日、15 日は大雨となったため、土砂災害警戒レベル 4 の発令に備えて早朝に東小学校等に避難所を開設した。
- ・ 集会所は自主避難所が開設される施設であり、長期の避難が必要と判断されれば東小学校に避難していただくことになる。各地区の集会所は自主防災組織の拠点でもあり、一時的に高齢者などの支援を必要とする方を集める場所と考えていただきたい。

○昨年大雨による道路の一部陥没について

(市民から)

昨年大雨により、畑に向かうために通る道路に舗装が陥没している箇所があり、作業のために通行はしているものの危険である。現場を確認し、土のうを積むなどの応急処置でも構わないので、早急に対応していただきたい。

(市から)

- ・ まずは現場を確認させていただきたい。
- ・ 昨年大雨では 800 ヶ所以上の被害の報告を受けており、危険度の高い順に修繕を行っているところである。

○空き家から伸びる雑木の処理について

(市民から)

隣家が空き家となっているが、立木が伸びてきており、対応に困っている。相続人がどこに住んでいるのかもわからないが、一定の時間が経てば市で対応してもらえるものではないのか。

(市から)

- ・ 空き家となっていることについては市でも把握しており、所有者へ手紙も出しているが、個人の財産なので市では伐採などの対応はできないこととなっていた。
- ・ 空き家に関する法律が改正され、敷地からはみ出している部分については、本人に通知すれば伐採できることになった。市の担当が相続人の連絡先を把握しているので、本人に交渉し、結果は町会長に回答する。
- ・ 市が把握している尾崎地区の空き家は 16 か所ある。空き家への対策を求める声はあるが、税金を使って解体するということまでは考えていない。

○街灯の交換について

(市民から)

自宅の前の街灯が点灯しなくなり、往来するにあたり暗くて危ない。間引いたりしているのか。以前は青い照明が点灯していたが、いつから点灯していないかはわからない。

(市から)

- ・青い照明は犯罪率を下げるために設置したものと思われるが、市の台帳に記載がない。
- ・間引くということはないが、まずは現場を確認させていただきたい。

○ねふたや伝統芸能の支援について

(市民から)

ねふたの補助金が今年度から 20 万円に増額されており、物価高騰などの影響もあって助かっているのですが、継続を求める。また、伝統芸能は継承者不足により団体の維持が難しくなっている。獅子踊りなどの伝統芸能の継承についても、披露する機会を市でも用意するなどして支援してもらいたい。

(市から)

- ・伝統芸能について、市で団体への補助金は出しているものの、継承者不足の解決につながってはいないと考えている。
- ・現在、毎年開催する芸能発表会への獅子踊り参加は交代となっているが、披露する回数を増やすなど、市へ相談いただければ要望に応じる検討はできる。
- ・人口減少で子どもも少なく、継承者も少なくなっている。対応策を思案するものの具体的な解決策は出ていない。行政でできること、団体にできることを整理するためにも、ぜひ意見を出してもらいたい。
- ・披露する場として、今年平川市で開催される 10 市大祭典のオープニングアクトで獅子踊りの出演を考えている。
- ・国の補助金を活用し、獅子踊りの外国人向け観光体験コンテンツの開発を予定している。
- ・ねふたの補助金 20 万円は、継続していきたいと考えている。

○農村公園の管理について

(市民から)

農村公園は子どもたちの遊びの場となっていて、指定管理を受けた町会が中心となって草刈りや樹木伐採の対応をしてくれている。また、尾崎地区の公園は町会長や白岩会が見回ってくれているが、市内の他の公園では管理者が気づかない部分があるかもしれない。市でも指定管理を委託して終わりではなく、巡回するなど、子ども達の安全を守っていただきたい。

(市から)

- ・公園の管理を所管する財政課からは、指定管理者に木の伐採なども行っていただいております、大変助かっていると聞いている。財政課も子どもたちが安心して遊べるよう、引き続き点検はしていくということである。

○子どものスポーツ支援について

(市民から)

子どもが少なくなってきたスポーツをする子どもも減り、親の負担が大きくなっている。親の負担を減らす工夫ができないものか。また、市でもバスを出すなどの支援をしてもらいたい。

(市から)

- ・働き方改革で教員による指導も難しいため、地域で子どもたちの面倒を見てくれる人がいれば助かる。
- ・スポーツで元気なまちづくりを目指して、施設整備や県外遠征の補助などを行っている。市が運用するバスの台数は減らしているため、バスを出すという支援は難しい。
- ・人口が減る中で競技人口を増やすというのは現実的ではない。クラブチームを結成するなどして、スポーツができる場所を確保していくことが必要と考えている。
- ・現在、部活からクラブへの移行が進められており、平日は部活、土日はクラブと違う指導者のもとでスポーツを行っていると思うが、着地点を模索していきたい。

○人口減少への対策について

(市民から)

子ども達が地元に残ってもらえるような地域を作ってもらいたい。

(市から)

- ・市では子育て支援や住宅支援、産業支援も行っており、人口減少対策は実施している。